

青か物語 新

信濃町 文学座アトリエ

●原作 山本周五郎

●脚色 戌井昭人

●演出 所奏

2017年文学座5月アトリエの会
文学座創立80周年記念

2017年5月12日(金)～26日(金)

前売開始 4月3日(月)



独りて住へりた。

あしかけ二年あまの

「蒸気河岸の先生」と呼ばれ

私はこの町の一人だから

人間とは、いったいどのような生き物なのだろうか？

考えたところで、結局よくわからない。良い奴ばかりではないし、悪い奴もいる。美しいことばかりじゃなくて、悲惨なこともある。しかし現在は、このようなことを気にしすぎて、息苦しい世の中になっている。そこに風穴をあけることができれば、なぞと大層なことは思わないけれど、「青か物語」の、むきだして生きている人間をみて、なんとなくおらかな気持ちになってもらえればと思います。..... 戌井昭人

青べか物語

2017年文学座5月アトリエの会
文学座創立80周年記念

●原作 山本周五郎
●脚色 戌井昭人
●演出 所奏



うらぶれた漁師町、浦柏を訪れた“私”。ある日“私”は、芳翁さんと呼ばれる老人から町の人の笑いものになっているボロ船「青べか」を買う羽目に。そのまま浦柏に住みついた“私”はやがて町の人たちから“蒸気河岸の先生”と呼ばれるようになる。この物語は“私”が浦柏で見聞きした出来事、出会った人たちの話である。

独特の狡猾さ、愉快さ、質朴さをもつ住人たちの生活ぶりを巧みな筆で捉えた大衆小説の傑作を、戌井昭人が脚色。戦後昭和の名作に、現代作家と新進演出家による共作で挑み、辺境にあった人々の生活を活写します。

●脚色 戌井昭人 (いぬい・あきと)



1971年、東京生まれ。劇作家、小説家。祖父は文学座創立メンバーだった演出家・戌井市郎。文学座附属演劇研究所を退所した後、表現活動集団《鉄剣アルパロケット》を主催。現在も活動を続けている。

2008年に「蟹のためいき」で小説家デビュー。翌年発表した「まづいスープ」ではやくも第141回芥川賞にノミネートされるなど、獨特の作家として注目を集めてつづけている。2013年「しゃべん心中」で第40回川端康成文学賞、2016年「のろい男 俳優・亀岡拓次」で野間文芸新人賞を受賞。

●原作者 山本周五郎 (やまもと・しゅうごろう)

1903年、山梨県生まれ。本名澤永三十九。小学校卒業後、教員の買店山本周五郎商店に奉公。店主の文筆もあって小説を書きはじめ、後にその名前をペンネームとした。1926年「須磨寺附近」でデビュー。徐々に大衆小説の分野で認められ、1946年「日本帰還記」で芥川賞に推されるも辞退。「樫ノ木は残った」、「赤ひげ診療譚」など次々と名作を発表し、人間に対する深い愛と洞察力で多くの読者の支持を得た。中でも「青べか物語」は著者晩年の名作として名高い。

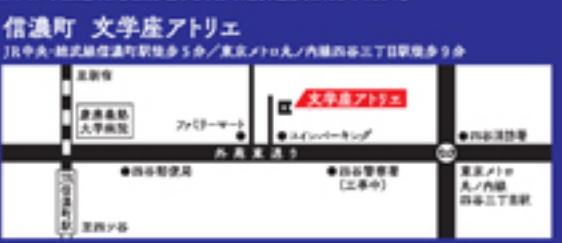
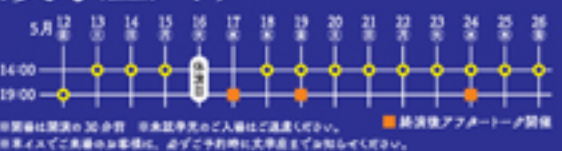
●スタッフ (演出) 石井強司 (脚色) 坂口英和 (脚色) 藤田赤目 (音楽) 宮本寛子 (演出助手) 寺田 修 (美術) 白田 聡、最富志麻子 (美術監修) 奥定泰之 (衣装) 伊藤八太郎

2017年5月12日(金)～26日(金) 信濃町 文学座アトリエ

前売開始 = 4月3日(月)

【入場料 (全席指定・税込)】
前売・電話予約 4,300円
当日 4,600円
ユースチケット 2,500円

【チケット取り扱い】
●文学座チケット専用 ☎0120-481034 (10:00～17:30/日祝除く)
●チケットのみ 0570-02-9999 (Pコード455-707)
●e+ (イープラス) <http://eplus.jp/bungakuza/> (PC・携帯共通) / ソフトで在庫が調べます
●文学座HP <http://www.bungakuza.com/> / GEM25 / OZ コーポレーション
【お問合せ】
文学座 03-3351-7265 (10:00～18:00/日祝除く)
〒160-0016 東京都新宿区信濃町10 <http://www.bungakuza.com/> info@bungakuza.com



「文学座支待会」をご存知ですか？ チケットの優先予約や招待・ご優待など色々の特典があります。詳細は文学座 03-3351-7265 へお問合せください。